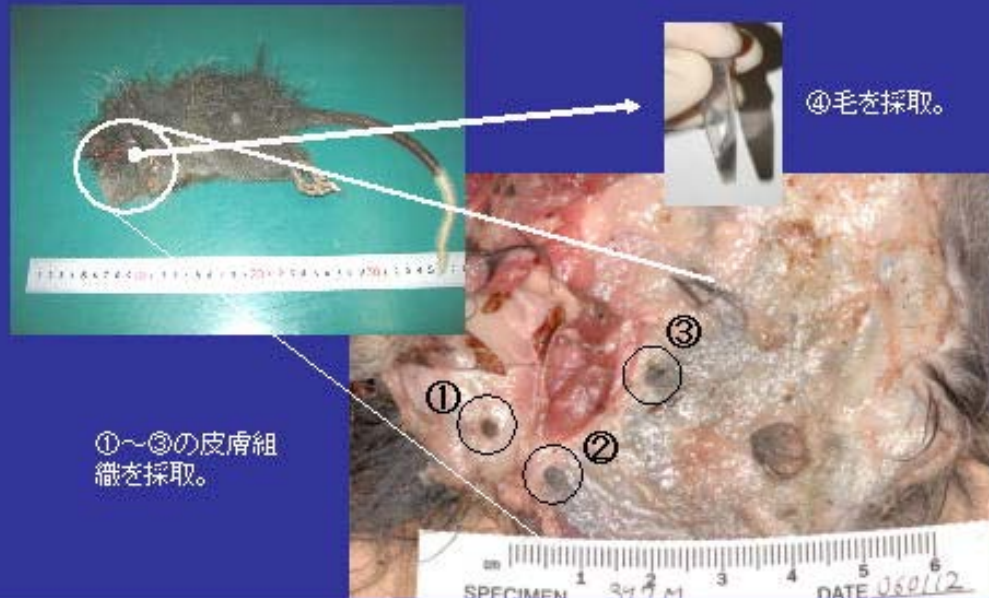


ケナガネズミの咬傷部位から抽出したDNAの種の判別

送付されたケナガネズミは、歯形と思われる損傷①～③及び体毛④に唾液と思われるものが付着していた。この部位より抽出したDNAより種の判別を行った。



《方法》

ケナガネズミの捕食者として考えられる動物が、イヌ・マンダース・猫と仮定されるため、これら各動物のcytochrome b遺伝子の配列に注目し、各々を判別するプライマーを作製し、PCRによる判別を行った。各々一度増幅したPCR産物の内部に種特異的なプライマーを設計し、二回の増幅を行った。

《結果》



今回、使用したケナガネズミのDNAは1～3は歯形がついた皮膚片から、4は唾液と思われるものが付着した体毛より抽出したDNAを用いた。D, M, Cは各々順にイヌ、マンダース、ネコである。

上図が判別を行ったPCRの結果である。イヌの場合においてのみ、体毛より抽出したDNAに増幅が認められた。咬傷の部位からの種特定はできなかった。そのため、咬傷がイヌとは同定できないが、イヌが大きく関わっていると考えられる。